

日本一の学校

左下の新聞記事は、先日瑞浪北中学校の校舎が「カーボンニュートラル賞」という大きな賞を受賞した時のものです。校舎を建てた瑞浪市を代表して、水野市長が木製の賞状とカップを受け取られました。

記事の中には、水野市長の言葉が載っていました。「統合の際に市民の皆さんと約束した『日本一の学校を作る』という目標を実現できたように思う。」

この「日本一の学校」という言葉が生まれたのには理由があると聞きました。統合に向けて取り組んでいるときに、統合に反対していた方たちが、市長を初めとする統合を進める人たちの熱い気もちに理解を示し、「市長！新しい学校を作るなら日本一の学校を作ってください」と言われたそうです。この言葉で、水野市長はそういう学校を作ろうと決意されました。

水野市長は開校式の中でも、「日本一の学校」を作ったから「そこで学ぶ生徒たちにも『日本一』を目指してほしいと語られました。当時の三年生はその期待に応えるために、「日本一の瑞浪北中学校」を合い言葉、後輩たちと共に頑張りました。このことを知っているのは、当時一年生だった現在の三年生だけです。

三年の皆さん、覚えていますか。あの時は統合することで「中学生がいなくなってしまう」と嘆く地域を元気にするために、ボランティアや地域行事にどんどん出かけましたね。その年度にそれらに参加した生徒が延べ四百人を越えました。

生徒会活動でも、三人の生徒会長がいましたね。旧三校のそれぞれのおさを発揮して、今の生徒記活動の元を作りました。体育大会では赤青白の三つの団で競い合いました。日本一にふさわしい言葉遣いをしようと、「蛮カラ言葉」を一掃し、言葉や環境を美しくしよう頑張りました。

三年生の皆さん、思い出しましたか。こんな過去を知っているのは君たちだけです。卒業していった先輩たちから直接この伝統を受け継いだのは君たちです。今の状況では先輩たちと同じことはできませんが、伝統を直接引き継いだ者としての自覚をし、やれる範囲内で瑞浪北中を「日本一」近づけてください。

「日本一」は「日本で一番」ではありません。「日本に一つしかない学校」です。最新の校舎だけではなく、こんなに広い校区をもつ学校、五つの地区から生徒たちが集まる学校はありませんよ。そういう環境をどのように自分たちの成長に生かすか、それが肝心です。

(九月三日 記)

瑞浪北中が特別賞受賞



瑞浪北中 (瑞浪市役所提供) のカーボンニュートラル賞の受賞を喜ぶ水野市長 (瑞浪市役所で)



省エネ、脱炭素でカーボンニュートラル賞

瑞浪市土岐町の瑞浪北中 受賞した。

学校が、建築設備技術者協

会の「カーボンニュートラ

ル賞」の選考委員特別賞を

賞は、同協会が二〇二二年に創設。省エネや脱炭素に配慮した建築設備に贈られる。

瑞浪北中学校は、瑞浪、日吉、釜戸の各中学校を統合して二〇一九年四月に開